令和６年度

学校評価（教員）

秋田県立男鹿工業高等学校

秋田県立男鹿工業高等学校

令和６年度学校評価（教員）　集計結果

回答３３人【全員提出】　　評価の全体平均　3.0

４　達成できた	３　ほぼ達成できた	２　あまり達成できなかった	１　達成できなかった	

項目	観点	評価規準	評価				平均
			4	3	2	1	
1 重点目標	設定	学校の現状と課題を踏まえた具体的な目標になっている。	1	28	4	0	2.9
	理解	学校の在り方や経営方針について共通理解を図っている。	1	29	3	0	2.9
	取組	創意工夫を生かした具体的な取組をしている。	1	23	8	1	2.7
2 組織運営	校務分掌	分掌組織は、学校の実態に基づいて編成され、有機的に機能している。	1	27	5	0	2.9
		分掌の構成は適材適所となっている。	1	25	17	0	2.8
		分掌の活動計画は、学校課題や重点目標を踏まえたものになっている。	4	26	3	0	3.0
		分掌間の連絡・調整や協力体制が図られている。	1	28	4	0	2.9
		各分掌の活動の記録や資料を適切にまとめ、組織的・計画的に評価を行い改善・充実を図っている。	3	23	7	0	2.9
		ＩＣＴを分掌運営等に積極的に活用している。	5	18	10	0	2.9
	学年学級経営	学年・学級の経営方針や活動計画は、学校の重点目標に基づき、生徒の実態を踏まえたものになっている。	4	24	5	0	3.0
		学年・学級の経営方針や活動計画は、生徒や保護者に十分理解されている。	2	21	9	1	2.7
		他の学年、分掌及び教科担任等との連携が緊密である。	1	23	7	2	2.7
	職員会議	情報交換、共通理解、課題検討の場として有効に機能している。	5	26	2	0	3.1
3 管理職の指導体制	学校運営	校長のリーダーシップが発揮され、積極的な学校運営が円滑に行われている。	3	24	5	1	2.9
	組織体制の確立	教職員が職務に責任をもち、意欲的に仕事ができる環境を整えようと努めている。	2	24	6	1	2.8

項目	観点	評価規準	評価				平均
			4	3	2	1	
4 説明・公表	説明	学校経営の方針や具体的な活動について、生徒や保護者・同窓会等に説明をしている。	2	26	5	0	2.9
	公表	教育活動の成果を保護者や地域等に公表している。	4	26	3	0	3.0
5 施設・設備	活用 管理	管理責任者や利用方法を明確にし、利用計画に沿って有効に活用している。	2	29	2	0	3.0
6 情報・文書	情報の 収集 活用	教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員や生徒・保護者への周知に努めている。	3	28	2	0	3.0
	個人 情報の 管理	個人情報について、プライバシーを侵害したり、不利益を与えないよう扱い配慮している。	8	22	3	0	3.1
	情報 公開	情報公開に対する教職員の共通理解を図っている	8	22	3	0	3.1
		情報公開に対応できるよう文書等を整備している。	5	24	4	0	3.0
	文書 管理	公文書の収受・発送・保管を適切に行っている。	7	25	1	0	3.2
		指導要録、出席簿等の記入・点検・保管を適正に行っている。	8	22	2	1	3.1
7 経理	出納・経理の手順	金銭・物品の出納は適切な手順に従って行っている。	14	18	1	0	3.4
	金銭・ 物品の 管理	保護者負担の軽減を図るため、金銭の徴収を計画的に進めている。	14	18	1	0	3.4
		経費節減や環境問題に配慮して、学校全体で省エネルギーを心掛け取り組んでいる。	5	26	2	0	3.1
	監査	生徒会・学級・部活動等の会計を適切に処理し、監査を受けている。	14	18	1	0	3.4
8 研修	計画	学校の実態や課題を踏まえた意義のある研修内容となっている。	3	20	10	0	2.8
	取組	教職員は、教科や生徒指導・進路指導等に関する研究と研修に意欲的に取り組んでいる。	3	23	7	0	2.9
		教職員間で、教育上の諸問題について気軽に話し合っている。	3	24	5	1	2.9
8 研修	活用	各種研究会・研修等の報告会や資料の回覧等を行い、全教職員で成果の共有を図っている。	2	22	9	0	2.8

項目	観点	評価規準	評価				平均
			4	3	2	1	
8 研修	活用	ＩＣＴの活用に関する研修に意欲的に取り組んでいる。	4	15	14	0	2.7
9 教職員の姿勢・意識	服務に対する姿勢・意識	教員としての自覚と誇りをもち、意欲的に職務に取り組んでいる。	6	24	3	0	3.1
		生徒の人権を重んじ、生徒一人一人に対する理解を深める努力をしている。	7	24	2	0	3.2
10 家庭や地域社会との連携	推進	関係諸機関・地域社会など外部組織との協力体制を整えている。	4	28	1	0	3.1
	取組	学校と家庭の関係を緊密にし、生徒一人ひとりの家庭環境の理解に努めている。	5	26	2	0	3.1
		地域の人材や施設を活用し、教育活動の中に地域の教育力を生かす体制を整えている。	5	21	7	0	2.9
	成果	保護者や地域社会の意見を可能な範囲で取り入れ、それを教育活動に反映させている。	3	25	5	0	2.9
		保護者や地域社会は、学校の教育活動への協力者として機能している。	3	21	9	0	2.8
11 中学校との連携	取組	教育課程や学校生活について、中学校の生徒や保護者、教職員に分かりやすく示している。	2	24	7	0	2.9
		体験入学などの学校説明を、中学校の要望を取り入れながら効果的に行っている。	2	25	6	0	2.9
12 危機管理	体制の確立	全ての危機を想定した危機管理マニュアルが整備され、教職員への周知徹底が図られている。	8	23	2	0	3.2
		施設・設備の安全点検や薬品等の管理が万全であり、定期的に確認が行われている。	6	25	2	0	3.1
12 危機管理	緊急時の対応	緊急時にどのように対処すればよいか、生徒や教職員に分かりやすく示している。	8	24	1	0	3.2
		家庭や関係諸機関への連絡がすぐに取れるよう資料等を整備している。	8	23	2	0	3.2
		担当者が不在であっても、緊急時の対応が滞りなく機能する体制になっている。	9	21	3	0	3.2
13 学校開放	推進	学校の教育力を地域に還元することに積極的であり、計画的に行っている。	3	22	8	0	2.9

項目	観点	評価規準	評価				平均
			4	3	2	1	
13 学校開放	推進	保護者や地域住民が気軽に学校を訪問できるよう配慮している。	3	19	11	0	2.8
14 教科指導	指導内容や指導方法の工夫・改善	基礎的・基本的な内容が身に付くよう、指導内容や教材の精選に努めている。	4	25	4	0	3.0
		生徒一人一人の基礎学力を高めるため、個に応じた指導を工夫し、それを実践している。	3	27	3	0	3.0
		毎時間、授業の目標を明確に分かりやすく示している。	7	23	3	0	3.1
		毎時間、授業の流れを明確に分かりやすく示している。	4	26	3	0	3.0
14 教科指導	指導内容や指導方法の工夫・改善	学習でつまずいた生徒への指導と支援を行っている。	2	19	12	0	2.7
		ＩＣＴを活用した授業づくりに取り組んでいる。	4	21	8	0	2.9
	学習活動の評価	生徒に自己評価を行わさせている。	2	18	13	0	2.7
		生徒による授業評価を、授業の工夫と改善に活かしている。	2	28	3	0	3.0
15 キャリア教育	取組	生徒が自らの在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう教育活動全般を通して組織的かつ計画的な指導が行われている。	3	25	5	0	2.9
		教育活動を通して、キャリア教育を行うことの重要性について、共通理解が図られている。	3	26	4	0	3.0
16 健康教育	取組	学校医、養護教諭、学級担任及び部活動顧問等の連携を図っている。	6	26	1	0	3.2
		性教育などについて共通理解を図り、計画的に実施している。	6	24	2	1	3.1
		生徒の自己管理能力を高めるための指導を行っている。	5	21	7	0	2.9
17 心の教育	取組	生命や人権を尊重し、規範や道徳を守る指導について共通理解が図られ、組織的に取り組んでいる。	4	24	5	0	3.0

18　令和６年度の成果　【個人的なものは除く】

・学校全体としてのあげることができる成果は見当たらない。

・学校HPが昨年度よりもより良く更新できている。

・学校行事が円滑に生徒主導で行われていた。

・分掌の役割をきちんと果たしていた。

・概ね達成できている。

・ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送っていた。

・多様な進路に対応し進路実現をほぼ達成できた。

・授業改善に向けた取り組みが浸透してきている。互見授業や授業研修会を通して、授業改善につなげる機会を設けることができた。

・保健室での生徒の様子など、学年部と養護教諭との情報共有が十分にでき、指導に生かすことができた。

・分掌間の連携ができている。

・生徒に関する情報交換や相談・助言等できていると感じる。

・分掌業務がスクールウェアやクラスルームを活用し、より円滑に進むようになった。

・百問繚乱、すぐーる等ICTの活用が一層進んだ。

19　令和７年度の改善点

・分掌の責任分担が十分に機能してない部分が見られる。管理職のリーダーシップを望む。

・生徒指導の一貫性

・生徒指導が学年主任や学級担任へ依存しない取り組み。

・生徒指導部、学年部、学科の密な連携

・生徒指導をもっと厳しくした方が良い。スマホ、タブレット、制服など風紀の乱れが多く、生徒の自主性に任せきれないことが増えている。

・問題行動による申し渡しに際し、当該学年職員の服装が略装過ぎる。学校が権力行使し、生徒の教育を受ける権利を停止する重みを認識しなければならない。

・学級担任が副主任を兼務しない。

・中間考査で全科目観点別学習状況評価入力や冬季球技大会がなくなるなど重要なことは事前に説明がほしい。

・互見授業の改善。

・ICT活用の研修会があったらいい。

・指導に苦慮する生徒の中には、言葉の力や最低限のモラル、マナーの定着が不十分で、問題の原因になっている場面も散見される。例えば、朝読書の時間を設定し、まとまった言語に触れ、情操を豊かにする場面があってもよいのではないか。

・統合校の委員会等で学校の実情や現場の声を参考にする機会があればいい。